

災害支援に関する事業が委託されました



平成28年度4月から『誰もが住みやすいあんしんのまちコーディネート業務』（札幌市障がい福祉課所管）という新しい事業がワン・オールに委託されました。この事業は、障がいのある方の災害支援について、お住まいの地域で具体的に推進しようという従来にない事業です。

具体的には、「避難行動要支援者名簿」等を活用し、障がいのある方の避難支援に取り組む（予定を含む）町内会・自治会、地区社会福祉協議会（福祉のまち推進センター）等に対して、災害時の備えや障がいのある方の支援に当たっての留意点の助言、避難行動要支援者とのマッチングや「個別避難計画作成」のお手伝いなどをすることが柱になっています。また、この事業を委託されたワン・オールのみだけで実施するのではなく、対象となる地域の相談支援事業所やそこに配置されている地域支援員等と連携しながら進めることとされています。

ワン・オールでは、この事業の委託が決まってから災害支援に関して学ぶことから始めています。現状の災害支援の法的根拠、実は多種多数存在する札幌市の防災・避難関係のマップやマニュアル、ハンドブック類、東日本大震災やこの度の熊本地震への支援経験者の実体験など。この中で、阪神淡路大震災、東日本大震災、そしてこの度の平成28年熊本地震等と想像を絶する災害を見聞きしているにも関わらず、必要な知識を得ることや具体的な手立てを打つなど、自分たち自身の災害に対する認識や備えが極めて不十分であることを感じています。

障がいのある方は、高齢者や子どもなどとともに、災害時には「情報弱者」「行動弱者」として災害に向き合うこととなります。そして、この「情報弱者」「行動弱者」を災害時に救出し避難させてくれる人は、阪神淡路大震災のデーターでは約80%が家族や近所の人。いかに日常の助け合いが大切か分かります。また、大規模災害では相談支援事業所をはじめ障害福祉事業所等も被災しますし、支援者とその家族も被災することとなります。

当面、障がいのある方のモデル避難計画の作成や要望のあった町内会等に、関係機関のご協力をいただきながらお手伝いをしていく予定です。町内会といっても、全市で連合町内会90、単位町内会は約2200。さらに、町内への働きかけ、お手伝いも大切ですが、障がいのあるご本人、ご家族、関係する支援機関への働きかけはどうするか。他の領域での取り組みとの連携はどうすべきか。たくさん課題はありますが、関係するみなさまのご協力をいただきながら、少しずつ解決していきたいと考えていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(oku)

精神障がい者地域生活移行支援事業



H27年度から「精神障がい者地域生活移行支援事業ピアサポーター活用業務」がワン・オールに委託されました。この事業をご存じない方も少なくないと思います。H26年度まで、こころのリカバリー総合支援センターや一部の委託相談支援事業所に委託されていました。H24年度から地域移行支援事業という個別給付の形をとったため、事業の理解は浸透しつつあると思いますが、委託されたこの事業は個別給付ではなく、「精神障がい者に特化した地域移行支援事業」ということとなります。ワン・オールに何ができるのか、札幌市や各機関と検討会議を重ねて半年経過し、昨年11月から市内の精神科病院38か所に、ピアサポーターとスタッフが挨拶に回りました。事前に各委託相談支援事業所に精神科病院との連携状況をお聞きしていたため、察しはついていましたが、地域との連携を積極的にしている精神科病院とそうでない病院がありました。主観も入りますが、入院患者の高齢化問題が地域移行(退院)につながらず、相談支援事業所と連携する必要性を感じていない病院があることを知りました。また一方で、長期入院患者の少ない病院もあり、二極化している状況も知りました。

さて肝心のピアサポーターについてです。現在、札幌市内には多数の「ピア〇〇」（ピアサポーター・ピアスタッフ・ピアカウンセラー含む）が存在するようです。身近なところでは、6か所の委託相談支援事業所に様々な障がいのピアサポーターが配置されています。今年度のワン・オールは、この配置事業所のご協力のもと、精神障がい者が配置されている事業所3か所中2名がワン・オールと契約しております。配置事業所と兼務している状況です。現在の活動状況ですが、1件の精神科病院から依頼があり、地域移行に取り組んでいます。ピアサポーターの当事者の視点と私たちスタッフとの相違点、病院と調整するPSWの努力を目の当たりにしながら、毎週活動しております。どうぞよろしくお願いいたします。

(ara)

平成28年度第一回 運営委員会が開かれました

平成28年度第1回の運営委員会【*】は、5月18日（水）に開催されました。主に平成27年度事業報告と、平成28年度事業計画が議題となり、次のような審議をいただきました。

- 設置当初は想定していなかった個別の相談について、27年度も26年度とほぼ同様の件数で推移している。
 - 弁護士等の司法との連携について、研修会等の機会を通じて、相談支援事業所との関係づくりを行っていく。
 - 今年度予定している視察について、相談支援体制やサロン機能との関係で参考になりそうな他都市を想定している。視察には、ワン・オール以外の委託相談支援事業所にも参加呼び掛けを。
 - 計画相談支援How to研修で蓄積されているQ&Aについて、札幌市とも協議しながら公開を。
 - ピアサポーター養成の場の必要性については、ピアサポーターの意見の尊重を前提に。
 - 地域部会の見える化資料作成について、部会間の凸凹の評価として伝わらないように工夫を。 など
- 運営委員会での審議をいただいたことで、見過ごしていたかもしれない視点や気づきをいくつもいただくことができました。ありがとうございました。

これ以前の運営委員会開催についても、ワン・オールかべ新聞（ホームページ）でご覧いただけます。

【*】札幌市から、基幹相談支援センター運営業務の委託を受けているワン・オールは、運営の中立性が一層必要であるとされており、事業内容等を中立公正な立場で審議する“運営委員会”を置くこととされています。現在の運営委員は、札幌市自立支援協議会の会長と相談支援部会長、就労支援推進部会長、札幌市障がい福祉課の担当課長の4名です。

(hay)

ごあいさつ

5月から新しくチームメイトに加わりました、佐藤範子です。

札幌市の委託相談支援事業所で相談員をしていました。相談員として様々な経験ができたことも、今回ワン・オールという場所で勉強させてもらえることも、みなさまの支えがあってこそだと感謝しております。今までとは少し違う角度からも相談や地域が見られることを楽しみにしています。

何かの際は気軽につかってください。

お休みをいただいていた吉原彩子が復帰し、スタッフ5名で今年度スタートしました。

よろしくおねがいします！



さっぽろ地域づくりネットワーク

ワン・オール



〒064-0808

札幌市中央区南8条西2丁目 市民活動プラザ星園 302号

TEL: 011-213-0171

FAX: 011-213-0172

E-mail: sapporo@one-all.net URL: one-all.net